

日曜に考える

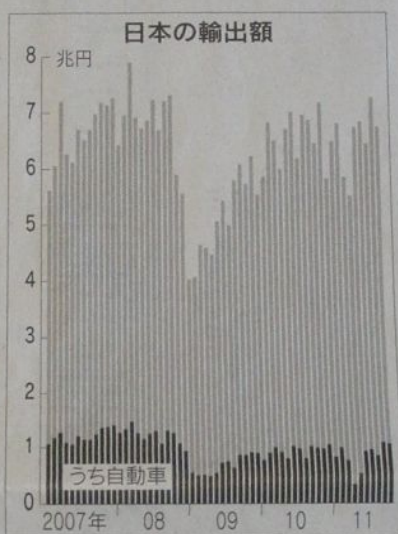
強い

注目 このデータ

月別の輸出統計を見ると、東日本大震災の影響の深さや広がりが見え始める。グラフが示すように、震災直後の4月、5月こそかなり落ちこんだが、夏以降はほぼ以前の水準を回復した。あの規模の巨大大災にして、回復に要したのはわずか3カ月だったことが分かる。

一方で、08年の世界金融危機の際の落ち込みは、期間も落ち込み幅もはるかに大きい。当時「ハーフ・エコノミー」という言葉がはやったが、日本の輸出規模も半近い水準まで

車生産、もろさ露呈

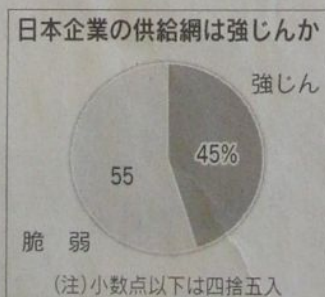


落ちこんだ。今回の震災で思わぬもろさをさらしたのが自動車生産だ。サプライチェーンが長く深く、1つの部品が欠けても生産が止まる。他の品目に比べても、3月、4

月の輸出の落ち込みは急で、毎月1兆円前後あった輸出額が4月には3000億円台に急降下した。6月にはほぼ回復したが、その間の機会損失は他業種よりも大きかった。

電子版アンケート

日本企業の供給網「脆弱」55%



日本経済新聞社電子版の読者に日本企業のサプライチェーンの強さについて意見を求めたところ、55%が「脆弱」と答えた。「タイに立地した企業は水害に対する弱さを知っていたはずだが、それを軽視したのではないかと、もしもの時の備えに対する甘え

読者と考える

を指摘する声があった。「強じん」と回答したのは45%。「供給網に支障が出て、他国の企業ではこのように早く回復できなかった」と立ち直りの早さを評価する見方が目立った。生産中断を防ぐための対策としては、68%が「部品調達先の複数化」をあげた。「短期的にはコスト高になっても、トータルを考えれば最も有効なリスク回避策」との回答があった。ただ負担増への懸念も根強く「復旧時間の短縮などコストがかからない方法で備えるべきだ」との意見が寄せられた。